

主な内容

## 新年のご挨拶

特集—— 岩手医大の救急医療

トピックス—— 令和元年度高大連携ウィンターセッションが行われました

表紙写真：ドクターヘリに乗り込むフライトメディカルクルー（関連記事P.4-6）



# 新年のご挨拶

理事長 小川 彰



新年あけましておめでとうございます。  
昨年9月新附属病院と内丸メディカルセンターが新たに開院しました。新たなコンセプトのもと、世界最先端診断治療機器を有する世界に冠たる病院になりました。開院して4か月になりますが使い勝手はいかかでしょうか。運用上の細かい問題が生じているのは承知しており、今後、修正をしてゆく予定です。使い勝手が悪いなど気づいた事がありましたらどんどん発言してください。修正できるのは開院後早期のみです。これだけ巨大な建物にもかかわらず、他の同規模の建物に比べ、不具合が極めて少なく抑えられたことは、事前の準備が周到だったからであり、皆様に御礼申し上げたいと思います。

一方、附属花巻温泉病院は約1年前に閉院しましたが、新附属病院と内丸メディカルセンターは従来に比し規模が大きくなり、かつCICUやGICUその他従来に比べ多くの特殊病棟の比率を増やしました。特殊病棟は診療報酬が高いメリットがある反面、医師、看護師その他医療職を多く配置する必要があり、医療人不足の岩手県ではその確保に難渋しております。

そのため特殊病棟に予定通りの患者を入院させられない状況にあり、病院経営に暗い影を落としています。大学としても人員確保に最大限の努力をしています。

また、病院が大きくなり、併せて駐車場も広大になりました。このことは維持管理費の増大をもたらし経営を圧迫しています。この状況下で、「増収増益」を目指していかなければなりません。現在内丸メディカルセンターは、昭和30、40年代の建物を再利用して運用していますが、老朽化が進み、今後修繕費用がかさんできます。将来、処分する建物に資金を注入することは得策ではありません。新内丸メディカルセンターを高規格病院にするためにその資金を充てたいのです。

本学は歴史が古い分、職員の意識が古いままの傾向があります。社会が進歩発展している中、「従来通りで良い」は「後退」を意味します。従来の慣習と概念にとらわれることなく、各部門で「知恵」を出し、「業務を効率化」し、「無駄をなくし」、「各部門でこぞって経営改善」の努力をお願いするものです。歴史ある本学に『新しい常識を作り』『新しい旋風』を吹かせましょう。



## 学 長 祖父江 憲治

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、御家族共々に健やかな新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年は本学にとりまして、激動の1年となりました。昨年7月には岩手医科大学附属病院（矢巾新病院）の落成式を挙行し、続く見学会では多数の町民・市民・県民の皆さんにご来場頂き、同9月21日は内丸旧病院から矢巾新病院への入院患者さんの大搬送が行われ、無事完遂することが出来ました。次いで9月24日より矢巾新病院外来と、内丸メディカルセンター外来・入院業務を開始し、現在に至っております。患者さんの搬送に際しては、岩手県・盛岡市・矢巾町など各自治体・県医師会と歯科医師会・県警・消防署・自衛隊から県内の県立病院を始めとする関連病院・北海道と東北の各大学病院などのご協力を頂きました。また、搬送当日は盛岡市・矢巾町をはじめ周辺住民の皆様が車での外出を控えて頂き、道路状況は良くスムーズな運行が可能となりました。このように、巨大病院の患者搬送という一大プロジェクトが何一つトラブルなく完遂出来ましたことは、多くの皆様のご協力によるものでした。そして何よりも、本学教職員の皆様の熱意が集約されたおかげであり、ここに厚くお礼申し上げます。矢巾新病院と内丸メディカルセンターの外来患者数と入院患者数も、移転前の状態に回復しつつあります。今後は、矢巾新病院と内丸メディカルセンターの役割分担を明確化して、各々の特徴を生かし、岩手県のみならず北東北・東北の医療中核拠点として、さらなる発展に向け努力してまいります。

矢巾新病院と内丸メディカルセンターは、医・

歯・薬・看護四学部の学生諸君にとって壮大な実地教育病院となりました。また卒後の医療人教育においても、本学のみならず全国からより多くの医療人を受け入れ、高度専門医療人として育成し、本学から岩手県、北東北、東北さらには日本全国へ輩出してまいる所存です。卒後教育に関しては、その中心となる卒後臨床研修センターの組織と機能の充実に努めてまいります。

学生教育につきましては、早期に低学年クライシスを見つけ出し解決することが重要で、教育現場の教職員の皆様方と共に留意しながら、学生諸君にモチベーションを持たせるべく工夫してまいります。学生諸君の勉学環境整備として、矢巾新病院建設に伴い新病院と店舗棟にSGLなどの勉学スペースを新設しました。時代と共に、世相を反映して学生気質も大きく変わっていきませんが、いかに世の中が変わろうとも、自己のidentityを失わせてはなりません。Identityこそが学生諸君のモチベーションにも繋がります。学生諸君にとって勉学は当然のことですが、卒後に「医療人たる前に誠の人間たれ」の心構えと母校を思い出す、そんな大学にしてみたいでしょう。

矢巾新病院開院後には、病院機能評価や各学部教育分野別評価などの予定が目白押しで、関係各教職員の皆様には現在でも大変なご苦勞をお掛けしておりますが、さらなるお願いを申し上げます。長い歴史を刻んできた本学ですが、この大変革期に臨み、従来以上に教職員の皆様方が心を一にし、本学の発展に向け力を合わせるべく、皆様方のより一層のご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



特集

## 岩手医大の救急医療

岩手県高度救命救急センターは、昭和 55 年に岩手県が本学附属病院に運営委託をして設立されました。同センターは昨年 9 月の附属病院新築移転に伴い矢巾町に移転し、ヘリポートと直通となったことで、処置室までにかかる時間が大幅に短縮されました。一方、内丸メディカルセンターでは、初期救急患者を対象とした応急診療外来が新設されています。本稿では岩手医大の救急医療についてご紹介します。

### ■ 附属病院（岩手県高度救命救急センター）

当センターは県内唯一の高度救命救急センターであり、全国的にも稀な自己完結型救命救急センターです。そのため、一般的な救急疾患以外にも重度多発外傷、広範囲熱傷、中毒、重度四肢外傷、特殊感染や重症敗血症などの初期治療から手術、集中治療、急性期リハビリまで、迅速かつ円滑に施行可能です。また、県内外からの紹介やドクターヘリ搬送も多いのが特徴です。まさに岩手の救急医療を担う最後の砦になっています。

### ◆ 専門チーム

各チームに分かれていますが、ほとんどの医師がスペシャリティーまたはサブスペシャリティーいずれの分野でも救急専門医、各種専門医の両方を取得しており、全身から専門まで、高度な診療を行うことができます。

- 消化器内科・中毒** 主に急性膵炎、上部下部消化管出血に対し急性治療から内視鏡的根治術まで行っています。また急性中毒における初期治療・集中治療を行っています。
- 循環器内科** 主に心不全、肺血栓栓症を中心に救急循環器疾患の初期治療と全身管理を行います。また、PCPS や ECMO、外傷性ショックにおける循環動態や不整脈等の全身管理に携わっています。また、当院、心腎内科の病棟管理も行っております。
- 呼吸器内科** 主に肺炎や感染症における各チームへのアドバイスや治療を行っています。当センターの院内感染に対する対策や研究も行っています。
- 脳神経内科** 主に脳梗塞や意識障害、痙攣発作や髄膜炎を中心に急性期治療を行っています。
- 泌尿器・血液浄化** 様々な敗血症や血液浄化における各チームへのアドバイスや治療を行います。また国内外へ積極的に講演会や学会発表をしています。
- 消化器外科** 主に胸腹部外傷や腸管穿孔、虫垂炎などによる腹膜炎、腹腔内感染に対する手術、集中治療を行っています。
- 整形外科・熱傷** 主に多発外傷、骨軟部組織外傷、胸部外傷、広範囲熱傷、特殊感染を中心に診療しています。Damage Control Surgery から Control Orthopedics and Spine、Early Total Care まで、また骨盤外傷や脊椎外傷なども積極的に手術加療しております。
- 脳神経外科** 主に頭部外傷における急性期治療、集中治療を行っています。さらに内因性脳血管障害にも対応し、慢性硬膜下血腫などに対する治療や手術も行っております。
- 精神科** 当センター専属の精神科医が 24 時間体制で診断と治療にあたります。精神科救急疾患以外にも外傷や身体疾患患者の精神科基礎疾患、合併症、せん妄や不眠等のコントロールも行っています。
- フライトドクター**  
(ドクターヘリフライトチーム) 救急センター所属の救急専門医またはそれに相当する経験を有する医師により構成されています。より速く治療開始し、適切な医療機関へ搬送することで救命率の向上に寄与しています。

## ◆ センターの施設設備



待合室



救急患者処置室



CT 装置



救急センターハイケア治療室 (EHCU)



ナースステーション



手術室直通の専用エレベーター

## ◆ ドクターヘリ



岩手県の事業として整備を進め、2012年5月より当センターが主体となり運行を開始しました。ドクターヘリの使命は重症患者さんの救命です。当センターのドクターヘリフライトチームは、①早期からの初期診断・治療、②適切な医療機関の選定、③より短時間での搬送を実践し、高度な救急医療を提供しています。現在では、この広域な岩手県において欠かせない医療システムになっています。

## ◆ DMAT の活動

当センターではDMAT<sup>※</sup>（災害派遣医療チーム）を3チーム保有しており、日本における災害において、DMAT本部の統制下のもと、要請に応じ出動が可能です。令和元年台風19号豪雨では、宮城県丸森町に本学DMAT（医師2名、看護師2名、調整員2名）が出動し、東日本大震災での教訓を活かし、避難所の回診や病院間患者搬送などの被災地支援を行いました。※DMAT：Disaster Medical Assistance Team



台風19号豪雨での活動



宮城県丸森町において（撮影：高橋学講師）

左から：小笠原技能員、金子看護師、武田主任診療放射線技師、高圓薬剤師、秋丸助教、細川主任看護師

救急医学は医学の原点であり、救急診療は医療の原点といわれています。また、医師としてのあるべき姿、総合的な医学教育、各種の救急疾患に対応できる幅広い診療技術を学ぶことができます。24時間体制の救急医療の中で、卒前、卒後教育を通して基本的な救急患者の振り分け、適切な初期治療を行える技量を教育し、地域医療の砦として、また地域医療を支える教育機関として、使命を全うできるよう努めてまいります。

（センター長 井上 義博）

## ■ 内丸メディカルセンター（応急診療外来）

内丸メディカルセンターでは、入院棟（旧循環器医療センター）2階で、平日17時から21時の間、急な痛みやケガなど比較的軽傷な患者さんを対象として応急診療外来（夜間の初期救急診療）を開設しています。

### ◆ 診療内容

応急診療外来では、血液検査やレントゲンの他、CT装置も備え、初期救急 +  $\alpha$  で適切に対処します。症状に応じて本学附属病院や近隣の医療施設との連携も行っています。

- ・ 診療時間 平日 17:00 ~ 21:00
- ・ 診療科 内科、外科、歯科
- ・ 診療内容 軽症患者への応急処置に限る
- ・ 注意事項

専門医不在により、症状によっては診療ができない場合がありますので、受診前に必ずご連絡ください（019-613-6111）。



下沖 内丸メディカルセンター長

### ◆ 施設案内

応急診療外来は、入院棟（旧循環器医療センター）2階にあります。フロアマップなどの詳細は以下をご覧ください。

概略図



2階フロアマップ



外観



1 入院棟 1階正面玄関



2 会計・受付（夜間は応急診療外来受付）



3 応急診療外来廊下



4 診察室

内丸メディカルセンターは、「地域の皆さまに、良質な医療を安全に、まごころを込めて提供します」という理念のもと、「誠の医療」の実践を目指しています。応急診療外来のスタッフは7名（医師2名、看護師2名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務員1名）で、内科、外科、歯科の応急診療を担っています。気になる症状がおありの際は、お気軽にご連絡ください。

（センター長 下沖 収）



## 歯科衛生部の及川 弘美 主任歯科衛生士と東9階B病棟の細界 ユカリ 看護師が 文部科学大臣表彰(医学教育等関係業務功労者)を受賞しました

歯科衛生部の及川弘美主任歯科衛生士と東9階B病棟の細界ユカリ看護師は、長年にわたり大学病院関係の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和元年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

及川主任歯科衛生士は、37年の長きにわたり歯科衛生士として歯科医療センターでの業務に加え、歯科衛生専門学校生の教育に従事するなど、本学の発展に大きく貢献されました。また、平成13年からは主任歯科衛生士として、歯科衛生部全体の資質の向上を図るとともに後進の教育・育成に尽力されました。

細界看護師は、41年の長きにわたり血液内科病棟、整形外科病棟等において、専門知識や技術に基づいた看護を実践し、質の高い看護ケアを提供されました。また、教育担当者として新人教育に尽力し、後輩達の手本となり部署内外で責任ある役割を遂行し、当院の医療・看護を支えた功績が表彰されました。



(左から：及川弘美主任歯科衛生士、  
小川理事長、細界ユカリ看護師)

## 中央臨床検査部の行森 良一 臨床検査技師長が岩手県知事表彰(保健医療功労) を受賞しました



(行森臨床検査技師長と小川理事長)

本学附属病院中央臨床検査部の行森良一技師長は、長年にわたり本学附属病院の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和元年度の岩手県知事表彰(保健医療功労)を受賞しました。

行森技師長は、41年の長きにわたり臨床検査業務に精励し、岩手県の保健医療に貢献されたほか、本学附属病院中央臨床検査部内の様々な検査室勤務を経験し、幅広い分野を統括しながら、部内の調和を図りました。研究面では2018年4月に国際シンポジウムでベストポスター賞を受賞しております。

また、岩手県臨床衛生検査技師会の要職を歴任され、県内の臨床検査技師の知識と技術の向上に大きく貢献されました。

### 理事会報告 (11月定例-11月25日開催)

#### 1. 教員の人事について

歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野 准教授  
佐々木 大輔(前 同講座 講師)

(発令年月日 2019年12月1日付)

#### 2. 職員の人事について

法人事務部総合移転計画事務室 室長  
古内 高志(前 同事務室 室長補佐)

(発令年月日 2020年1月1日付)

## ボイラー安全祈願祭が行われました

11月11日（月）、エネルギーセンターにおいて、ボイラー安全祈願祭が行われ、本学関係者約20名が出席しました。

当日、神官による神事では、祝詞奏上・清祓いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。また、小川理事長は出席者を代表して「今期も無事故で業務に従事していただきたい」と挨拶を述べました。

なお、本学の令和元年度のボイラーデースローガンは、「プロ意識 忘れず毎日 ボイラーデー」です。



## 令和元年度クラブ活動報告会が開催されました

12月2日（月）、大堀記念講堂において、令和元年度クラブ活動報告会が行われ、祖父江学長をはじめ、小林副学長、各学部長、各学部の学生部長、各クラブの部長及び学生が出席しました。

報告会では、今年行われた各種体育大会で優秀な成績を収めた団体、学友会活動に貢献した文化部へ表彰が行われました。



## 第5回いわて東北メディカル・メガバンク機構学内報告会が開催されました

12月5日（木）、本部棟4階大会議室と内丸キャンパス創立60周年記念館10階会議室を映像でつなぎ、第5回いわて東北メディカル・メガバンク機構（IMM）学内報告会が行われ、祖父江学長をはじめ、教職員約60名が参加しました。



開会挨拶をする祖父江学長

### 事業概要報告

佐々木 真理 機構長



### 研究成果報告

「ゲノムオミックス解析の進捗と今後の研究シーズ  
～学内共同研究の推進に向けて～」

清水 厚志 副機構長



### 研究成果報告

「地域住民コホート調査  
～健康調査結果と詳細2次調査の進捗状況～」

丹野 高三 部門長  
(臨床研究・疫学研究部門)



### 閉会挨拶

平 英一 医歯薬総合研究所長



当日は佐々木機構長らにより事業の進捗状況や研究成果についての報告が行われました。同機構では、引き続き東北メディカル・メガバンク計画を推進し、被災地域を中心とした健康調査や人材派遣により地域医療の復興に貢献するとともに、次世代バイオバンクの構築や解析研究などに取り組み、個別化医療・個別化予防の実現を目指します。



## 附属病院クリスマスコンサートが行われました

12月7日（土）、トクタヴェール1階フードコートにおいて、クリスマスコンサートが行われました。

今回のコンサートは本学管弦楽団（教職員、オーケストラ部等により構成）と小児病棟に入院中の盛岡青松支援学校の生徒さんにより、附属病院移転後初めてのクリスマスコンサートが盛大に開催されました。

当日は、本学オーケストラ部OBがサンタクロースに扮して指揮をとり「ディズニーメドレー」「クリスマスフェスティバル」などアンコール曲を含め計9曲が演奏されました。そのうち「花は咲く」「ふるさと」は盛岡青松支援学校の生徒さんとの合同演奏で、一生懸命練習してきた成果を披露しました。入院患者さんやご家族など約200名の方々に、一足早いクリスマス気分を味わっていただきました。



## 小児病棟のクリスマス会が開催されました

12月12日（木）、附属病院東7階小児病棟のプレイルームにおいて、附属病院が矢巾町に移転してから初めてのクリスマス会が開催されました。

この会は小児病棟に入院している子どもたちやその保護者の方々にクリスマス気分を味わっていただけるよう病棟スタッフや実習中の看護学生らによって毎年行われています。

当日は、ピエロのだぁちゃんによる手品のパフォーマンスや、もりおかゴスペルクワイアのみなさんによる讃美歌、青松支援学校医大学習室の生徒さんによる手話つきの合唱、看護学生によるダンスなど盛りだくさんの内容で、会場は楽しそうな笑い声に包まれました。



## 令和元年度高大連携ウィンターセッションが行われました

12月25日（水）、26日（木）の2日間、矢巾・内丸の両キャンパスにおいて、いわて高等教育コンソーシアム（岩手県立大学、岩手大学、盛岡大学、富士大学、本学）と岩手県教育委員会が主催する高大連携ウィンターセッションが行われました。

当催事は県内の高校生が県内各大学の教育・研究内容に触れる機会をつくり、各大学で学ぶことができる内容を広く知ってもらうことを目的として平成15年から開催しています。

本学では医・歯・薬・看護学部がそれぞれ講座を開講し、154名の受講者が各講座の講義や実習を体験しました。



医学部



歯学部



薬学部



看護学部

## 藤澤 美穂

## 『TOKUTAvail』 フードコートのおいしいものを紹介します

presents

矢巾新病院の開院とともにオープンした「トクタヴェール」のフードコートは、患者さんやそのご家族だけでなく、教職員や学生も多く利用しています。

今回、そのフードコートのお気に入り商品を、学生に紹介してもらいました。協力してくれる学生は、ストリートダンス同好会「D-CONNECT」の部員の3名です。D-CONNECTは2017年に設立されたストリートダンスサークルで、医大祭や卒業祝賀・謝恩パーティーでのダンス披露等の活動をおこなってきました。今年度から同好会に昇格、やはパークでのイベントに出演するなど、4学部46名での活動を展開しています。みなさんには予算1,000円で、おすすめを紹介してもらいました。

看護学部2年 <sup>かの ちすず</sup> 菅野 千涼さん

D-CONNECT代表の菅野さんはアイスホッケー部にも所属し、この日もこれから部活があるとのこと。「部活前の夜ごはん」というテーマで選んでくれました。パン屋さん「PanoPano」で、もち姫ベーグルタルタルチキンとガトーショコラといちご牛乳を、「ローソン」で豚しゃぶパスタサラダを購入し、合計996円となりました。「甘党なので、疲れた時には甘い物が食べたくくなります。特にチョコレートを食べたくるので、ガトーショコラがおすすめです！」とのことでした。

歯学部1年 <sup>ゆう き</sup> 伊藤 優樹さん

テーマは「月イチのごほうびランチ」。パン屋さん「PanoPano」のソーセージコッペ、もち姫食パン、ジェラート（ラムレーズン）、牛乳を購入し、学割価格で合計837円でした。伊藤さんは特に「もち姫食パン（2枚で150円）」がお気に入り、焼かずに、何もつけずにそのまま食べるのがおすすめとのことでした。また「遅い時間に利用したいときもあるので、営業時間が長くなると嬉しいです」と話していました。

医学部2年 <sup>くれ ひろもと</sup> 呉 宏源さん

パン屋さん「PanoPano」でエビフライコッペ、「ローソン」でジューシー肉まん、「タリーズコーヒー」で期間限定アイリッシュラテを購入。見事に1,000円以内に収まりまして、このラインナップのテーマは「試験前のエネルギー補給」とのことでした。おすすめはエビフライコッペで、エビフライ好きの呉さんも納得のお味だそうです。「試験勉強の前に腹ごしらえしたいとき、フードコートがあるととても助かる」とのことでした。



今回3人ともお気に入りに挙げていたのがパン屋さん「PanoPano」のパンです。特に多彩なコッペパンもおすすめです。みなさんもぜひ、お試しください。

## 《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

## 編集後記

先日、校務の一環としてセンター試験の入試業務に参加させていただきました。若い受験生が春の大学入学をめざして真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。私自身が受験したのは共通一次試験の最後の方で、以来30余年を経っていますが、当時を振り返ると感慨深いものがあります。センター試験は今年度で一旦の区切りとなるようですが、今後も受験生の進路を決めるのに相応しいように変わって行けばと思います。そして本学にも、来たれ若き優駿たち。

(編集委員 藤本 康之)

## 岩手医科大学報 第520号

発行年月日 令和2年1月31日  
 発行 学校法人岩手医科大学  
 編集委員長 小川 彰  
 編集 岩手医科大学報編集委員会  
 事務局 法人事務部 総務課  
 TEL. 019-651-5111(内線5452, 5453)  
 FAX. 019-907-2448  
 E-mail: kouhou@j.wate-med.ac.jp  
 印刷 河北印刷株式会社  
 盛岡市本町通2-8-7  
 TEL. 019-623-4256  
 E-mail: office@kahoku-ipm.jp